

には、ランタマン法ではリージョナルセンターは、「包括的な再判定」をした結果、あなたに発達障害があるという以前の決定に「明らかに誤りがある」と証明されなくてはなりません⁷²。

リージョナルセンターがあなたはもう対象ではありませんと言ってきたら、あなたは不服申し立てをする必要があります。独自の判定をあなた自身が入手すべきです。ランタマン法では「明らかな誤り」という言葉を使っていることを覚えておいてください。この法律用語は、リージョナルセンターがあなたがもう対象ではないのだということを証明するにはとても高い基準をクリアしなくてはならない、ということの意味しています。リージョナルセンターは、あなたには障害がもうない、ということを言うだけではだめなのです。リージョナルセンターが下した以前の決定が絶対的に、疑いなく、間違っていたということを証明しなくてはなりません。

もし、こうした問題に直面しているのであれば、あなたは PAI か OCRA に電話をする必要があります。PAI があなたの代理人として動くことができなかつたとしても、少なくとも「明らかな誤り」という基準についてあなたに詳しく説明できますし、公聴会に向けてどうやって準備すればいいかについてアドバイスをすることができます。

また、3 歳になった時点で対象でなくなることもありえます。この場合、リージョナルセンターは「明らかな誤り」の基準を満たす必要はありません。発達に遅れがあったり、発達障害になるリスクがあったりする 3 歳までの子どもの場合、リージョナルセンターでは「早期介入」と一般的に知られているプログラムを実施します。これについては第 6 章質問 7 や PAI が出している『特別教育の権利と責任』マニュアルの第 12 章をご覧ください。子どもが 3 歳になったときに、リージョナルセンターはその子どもに発達障害があるかどうか再判定をします。もし、その段階で対象となる条件を満たしていなかった場合、リージョナルセンターの利用対象外となります。親やその他の代理人を通して、子どもはその判定結果に対して不服申し立てをすることができます。

さらに、たとえばてんかん（発作症状）のように自然にあるいは薬でよくなることのある条件で、リージョナルセンターを利用する対象となっている場合、利用資格を失う可能性があります。もし、あなたの状態がものすごくよくなっているか、てんかん発作が何年もの間完璧に抑えられているのであれば、もう実質的な障害ではなくなったと判断されるケースになるかもしれません。そうした場合、リージョナルセンターはあなたは発達障害ではなくなったという可能性があります。技術的には、リージョナルセンターは（上で述べたように）判定が明らかに誤っているという基準を満たす必要があります。つまり、あなたの状態が疑いなく改善されたという基準を満たしているかどうかの問題になるのです。とはいえ、今実質的な障害がなかったとしても将来変わらないとは言い切れないのではないかと思います。あなたの障害が今あなたに影響を与えているとうまく説明できない場合、リージョナルセンターがあなたのケースを「休止した」と判断するかどうかを知りたいでしょう。こうした場合、あなたが将来サービスを必要とするようになったら、リージョナルセンターのサ

⁷² 4643 条 5(b)。

サービスの対象となることができます。

24. リージョナルセンターの利用を申請しました。決定が出るまでどれくらい待たなくてははいけませんか？

リージョナルセンターは、最初のインテークから 120 日以内にサービスの利用資格があるかどうかを決定するための判定・評価を終わらなくてははいけません⁷³。ただし次の場合は、判定は 60 日以内に行われたいけません。

- 判定が遅れることで、健康や安全に不必要なリスクが生じるとみられる場合、あるいは、精神的・身体的な発達にさらに深刻な遅れが出るリスクが生じるとみられる場合
- もっと制限の強い環境に移される危険が迫っている場合（たとえば子どもが家族と住む家から他の場所に移されるとか、入所施設や他の施設に移されるといった場合）⁷⁴

「最初のインテーク」とは、リージョナルセンターの人と初めて会って、書面に署名して、あなたがリージョナルセンターの利用資格を申請しているということがはっきりしたときのことを指します。ですから、リージョナルセンターに、この話し合いを最初のインテークとしてリージョナルセンターが認めたかどうかを確認することをお勧めします。リージョナルセンターが認めた日付を書き留めてください。そこから 120 日を数えることができます。

この期限が終わるまでに、リージョナルセンターは（もし必要と判断すれば）判定を終わらせ、あなたが渡すかリージョナルセンターに取り寄せることを許可した他所の判定を評価し、あなたやあなたのことをよく知っている人を面接します。そして、リージョナルセンターは集めた情報すべてを報告にまとめます。それから、リージョナルセンターはあなたがリージョナルセンターを利用する対象となるかどうかを決定します。リージョナルセンターからあなたには手紙が行きます。もし、リージョナルセンターの対象となると書いてあれば、第 1 回の IPP 会議の日程を決めることができます。第 4 章をご覧ください。もし、リージョナルセンターを利用する権利がないと書いてあれば、その手紙には公聴会を行うことで決定に申し立てをする権利があると書いてあるはずですが、第 12 章をご覧ください。手紙に書かれている期限までに決定に申し立てをしてください。そうでないと、決定に申し立てをすることができなくなります。

リージョナルセンターのサービスの対象となると書かれていた場合、判定が終了してから 60 日以内に最初の IPP を完成させなくてははいけません⁷⁵。

⁷³ 4643 条(a)。現在の法律では、2006 年 7 月 1 日以降は、インテーク後 60 日以内にアセスメントが行われなくてはならない。また、もし 60 日以内にアセスメントが完了することを妨げる通常でない状態が発生した場合は、DDS の書面による同意に基づいて 30 日延長される。しかし、過去 4 年間は 120 日という延長された時間枠が設定されてきており、議会ではこの時間枠を今後も続けていく可能性がある。

⁷⁴ 4643 条(a)。

⁷⁵ 4646 条(c)。

25. リージョナルセンターに利用資格の申請をしました。しかし、リージョナルセンターは私に資格がないと断りました。どうすればいいのでしょうか？

手紙に書かれた期間内に確実に不服申請をしてください。念のためにいつも、手紙に書かれている日付を、期限を数えるために使ってください。普通は利用資格を認めない手紙が実際に手元に着いた日から数えるのですが、いろいろな理由からその日を計算するのは難しいです。

リージョナルセンターを利用する資格が認められなかったことに不服申し立てをすることは大変です。なぜなら、あなたの能力を毎日観察することに加えて、あなたの障害について専門的な情報を提供する必要があるからです。リージョナルセンターの利用資格を巡る不服申し立てのほとんどで、リージョナルセンター以外のところで行った心理判定の結果が必要になるようです。もし、精神発達遅滞やそれによく似た状態にあるということでリージョナルセンターのサービスの対象になると思うのであれば、あなた自身の神経心理学(neuropsychological)判定結果を持っていった方がよいでしょう。神経心理学判定は、心理学判定よりもっと多くの異なる検査を行います。検査が増えた分、あなたが物事をどう考えているか、そして情報をどう処理しているかといった情報をより多く得ることができます。この情報は、あなたが精神発達遅滞やそれによく似た状態にあるかどうかを証明するのに使われます。心理士なら誰でも神経心理学判定を行う訓練を積んでいるというわけではありません。

もし、あなたが判定してもらいたいと思う臨床心理士を見つけたら、その人が神経心理学判定を行ってその結果を解釈することができるかどうかを尋ねる必要があります。もしそれができるといっているのであれば、その人に公聴会に出席して判定結果について意見を言うてもらわなければならないと伝えておいてください。その他にあなたは、学校記録、他の心理士の検査結果など、あなたの能力や障害について正確に書いてある文書を集めておく必要があります。すでにそうした文書をリージョナルセンターに申請するときに提出してあったとしても、申し立てに使うためにもう一部コピーを用意しておく必要があります。

申請が認められなかったときの不服申し立ての方法については、PAI か OCRA に電話をして支援をしてもらうことをお勧めします。PAI や OCRA が申請が認められなかったすべての人の不服申し立ての代理人になることはできませんが、相談に応じて、申し立てをどのように行うのがベストかについて情報を共有します。

第3章 リージョナルセンターが出発点です

- リージョナルセンターのサービスの申請の仕方
- リージョナルセンターによるサービス調整
- リージョナルセンターの間の移動

1. リージョナルセンターの責任とは何ですか？

リージョナルセンターは発達障害のあるすべての年齢の人にサービスを提供します。リージョナルセンターは大人、子ども、乳幼児、そして発達障害を持つ子どもを生む可能性のある人にサービスを行います⁷⁶。リージョナルセンターは次のことをしなくてはなりません。

- リージョナルセンターのサービスを必要とする人を見つけ、明らかにすること⁷⁷
- リージョナルセンターのサービスの受給資格があるかどうかを決めるためにインタビューとアセスメントを行うこと⁷⁸
- 発達障害をもつ子どもを育てるリスクが高いと考えられる親に対して予防サービスを提供すること⁷⁹
- すべての利用者に対して、サービスの調整を行うこと⁸⁰
- 一人ひとりの個別のニードや選択を反映させた IPP を作成すること⁸¹
- IPP に記されたサービスや支援が確実に提供されるようにすること⁸²
- 新しいサービスや支援を開発するとともに、提供されているサービスや支援の質を監視すること⁸³

2. リージョナルセンターはどうやって発達障害がある人を見つけるのですか？

リージョナルセンターには「問題を持った対象者を発見する」ことが求められています。つまり、リージョナルセンターは、地域の中からサービスを利用資格がある人を積極的に捜さないといけないということです。事例を発見するに当たって、リージョナルセンターは保健所や、社会サービス局、校区、その他の州や自治体、民間の機関と連携を取ります。

発達に遅れがあったり発達障害があったりする子どもの親は、小児科などの医師からリージョナルセンターを紹介されることがあります。医師や心理士の紹介状が必ずしも必要なわけではありません。医療職が検査をしていなかったとしても、発達障害があると思われる人なら誰でも、リージョナルセンターの判定を受けることができます。

⁷⁶ リージョナルセンターは、連邦の特別教育法である障害者教育法 (IDEA) の「パート C」に基づいて、障害を持つ乳幼児（満 3 歳まで）に対して早期介入を行う。このマニュアルではパート C については扱わない。パート C のサービスについては、PAI が出版している『特別教育の権利と責任』の第 12 章を参照。(ウェブサイト省略)

⁷⁷ 4641 条。以下、特に断りのない場合はランタマン法の条文を指す。

⁷⁸ 4642 条、4643 条。

⁷⁹ 4644 条。

⁸⁰ 4640 条 6(c)、4647 条。

⁸¹ 4646 条、4646 条 5。

⁸² 4648 条、4651 条ほか、ランタマン法全体を通して多数の条文。

⁸³ 4647 条、4648 条(d)、4648 条(e)、4648 条 1、4651 条。

3. リージョナルセンターは発達障害者のコミュニティの多様性をどのように反映させていますか？

地域全体にサービスを行き渡らせるためにランタマン法が考えているひとつの方法は、リージョナルセンターの理事会を発達障害者全体を代表するような形にすることです。少なくとも 25 パーセントの理事は発達障害者自身でなくてはなりません。少なくとも 50 パーセントは発達障害者、親、法的後見人でなくてはなりません⁸⁴。理事会は、その地域の社会的、文化的、民族的な構成を反映させるべきです。こうすることで、人種や民族、宗教、収入に関わらずリージョナルセンターのサービスを必要としている人すべてが、必要とするサービスや支援を受けられるようになります。

4. リージョナルセンターは私の文化に配慮したサービスを提供しなくてははいけませんか？

はい。もしあなたが、リージョナルセンターにあなたの文化的背景を考慮してもらいたかったら、サービス・コーディネーターにそのことを話し、あなたがしてもらいたいことやあなたが大切に思っていることをはっきりとさせることが重要です。サービス・コーディネーターには、IPP を作るためにあなたに関する情報を集めているときに、あなたがしてもらいたいことを告げることができます。リージョナルセンターは、IPP を作る際には、あなたやあなたの家族のライフスタイルや文化的背景を心にとめておかないといけません⁸⁵。リージョナルセンターは IPP を作る人たちが文化的なことに配慮した IPP を作るができるように、あなたと共有した情報を使わなくてははいけません。

もし、あなたにリージョナルセンターを使う子どもがいる場合は、リージョナルセンターはあなたの子どもが、家族の文化的背景、価値、ライフスタイルに合ったサービスを受けられるようにしなくてははいけません⁸⁶。

5. 私は英語を話さないのですが、どうなるでしょうか？

もし、あなたが英語を話さないとか、英語を理解することが難しいとか、他の言葉を話す方が楽だという場合は、最初の面接を行うときにそのことをリージョナルセンターに伝えた方がいいでしょう。リージョナルセンターは、面接に通訳を付けなくてははいけません。よいコミュニケーションは大切なことです。必要であれば、最初の面接からずっと、面接をするごとに通訳を付けて話すことができます。あるいは、英語を話すことができる友だちや家族を連れてきて、あなたの手伝いをしてもらうこともできます。しかし、リージョナルセンターの側からプロの通訳の代わりに友だちを連れてきてください、とあなたに頼むことはできません。もし、リージョナルセンターの決定に申し立てをする必要があって、通訳が必要な場合は、リージョナルセンターが費用を支払う形で通訳が付けられなくてははいけません⁸⁷。IPP などの文書を翻訳し

⁸⁴ 4625 条、4622 条(e)。

⁸⁵ 4646 条 5(b)(1)。

⁸⁶ 4685 条(b)(4)。

⁸⁷ 4710 条 6(a)(5)、4710 条 8(c)。

てもらいたい場合とか、会議や電話で通訳が必要な場合は、通訳のサービスを使う権利が法律で保障されています⁸⁸。

なるべく早い段階で通訳が必要だということをリージョナルセンターに伝えておくのはよい考えです。どのように通訳を頼むかについては、付録 T をご覧ください。リージョナルセンターが文書を訳してくれなかったり、通訳を付けてくれなかったりしたときは、PAI か OCRA にあなたの権利についてお問い合わせください。

6. 私の障害のためにリージョナルセンターに行くことができない場合はどうなりますか？

障害のためにリージョナルセンターの事務所に行くことができない場合は、リージョナルセンターの方からあなたの家を訪問しなくてはなりません。こうした配慮に関する権利はリハビリテーション法 504 条やその規則など、連邦法で保障されています⁸⁹。この権利はリージョナルセンターの他にも、居宅支援サービス (IHSS)、社会保障庁など給付やサービス支給を行う機関ならどこでも使えます。必要があれば、公聴会や申し立ても含めて、電話でほとんどを済ませることができます。

7. リージョナルセンターのサービスを受けるためにどうやって申請をすればいいですか？

まず、手紙、電話、あるいは直接行くことで地元のリージョナルセンターに連絡を取ります。次に、「インテークとアセスメント」の予約を取ります。インテークの時は医師、病院、診療所、学校、その他あなたのことやあなたの子どものことをよく知っている人や、あなたやあなたの子どもの発達歴を知っている人からもらった記録を持って行ってください。医師、心理士など、あなたがかかったことのある専門家の名前、住所、電話番号も持って行ってください。こうすることで、物事が早く進みます。リージョナルセンターでは、あなたに書類に記入してもらうようお願いします。そして、リージョナルセンターがあなたの発達障害に関する記録を手に入れてもいいという書類にサインするように、あなたにお願いします。付録 E をご覧いただくと、面接で必要になる情報を集めるためのチェックリストがあります。リージョナルセンターの受付や面接者があなたのリージョナルセンターの受給資格を否定してはならないことになっていることを覚えておいてください。

8. 最初にサービスを申請してから、リージョナルセンターの予約はいつ頃までにとれるでしょうか？

申し出てから 15 業務日以内にリージョナルセンターは「最初のインテーク」を終わらさなくてはなりません⁹⁰。リージョナルセンターは、リージョナルセンターなど

⁸⁸ Government Code 7290 条及び 11435 条 05、11435 条 15、11435 条 25(b)。Welf and Inst. Code 4502 条 1、4646 条、4646 条 5(a)(1)、4701 条。Cal. Code Regs., tit. 22, 98210 条(a),(c),(d)、98211 条(c)。

⁸⁹ 29 U.S.C. 794 条、45 C. F. R. 84 条 22(b)。

⁹⁰ 4642 条。

のサービスについての情報をあなたに伝えて、アドバイスをしなくてはなりません。リージョナルセンターは住所や電話番号などエリア・ボードや PAI、OCRA に関する情報をあなたに伝えます⁹¹。最初のインテークの時に、リージョナルセンターは正式なアセスメントを行うかどうかを決めます。そして、もっと多くの情報をお願いするかもしれません。あなたの障害について書かれた文書がはっきりしているので、正式なアセスメントをする必要がないときもあります。

9. アセスメントはどのくらい時間がかかりますか？

リージョナルセンターは、サービスを受給資格があるかどうかを決めるアセスメントと評価を最初の面接から 120 日以内に終わらせないとはいけません⁹²。ただし次の場合は、アセスメントは 60 日以内に行われないとはいけません。

- 判定が遅れることで、健康や安全に不必要なリスクが生じるとみられる場合、あるいは、精神的・身体的な発達にさらに深刻な遅れが出るリスクが生じるとみられる場合
- もっと制限の強い環境に移される危険が迫っている場合（たとえば子どもが家族と住む家から他の場所に移されるとか、発達センターや他の施設に移されるといった場合）⁹³

もし、リージョナルセンターのサービスの利用資格があるということになれば、最初の IPP は判定が終了してから 60 日以内に終わらなくてはなりません⁹⁴。

10. アセスメントとは何ですか？

アセスメントとは、リージョナルセンターのサービスの利用資格があるかとか、ある特定のサービスを使う資格があるかどうかを決めるための情報を集める方法です。リージョナルセンターは、あなたに権利があるかとか、あなたがどのようなサービスを必要としているかを決めるためにより多くの情報を必要とするときがあります。ID チームは医師、心理士、学校、検査、面接などから記録や報告を集めます。リージョナルセンターでは正式な心理検査や医療検査を依頼することもできます。これらすべてが判定に含まれます。

11. 私はリージョナルセンターで誰に会うのですか？

インテーク・ワーカーが最初の面接や会議を行います。他のスタッフにも会うかもしれません。リージョナルセンターのスタッフは、それぞれ専門の仕事を持っています。たとえば、ソーシャルワーク、心理学、医療などです。彼らはチームを組んで、

⁹¹ 4646 条(c)。

⁹² 4643 条(a)。現行法では、2006 年 7 月 1 日以降、アセスメントはインテーク後 60 日以内に行われなければならない。そして、もし、アセスメントが 60 日以内に完了できないような通常でない状態がある場合は、DDS の書面による合意に基づいて 30 日まで延期できる。しかし、過去 4 年間は 120 日という延長された時間枠が設定されてきており、議会ではこの時間枠を今後も続けていく可能性がある。

⁹³ 4643 条(a)。

⁹⁴ 4646 条(c)。

面接や判定を行います。このチームは分野を超えたチームとか ID チームとか呼ばれますが、少なくとも医師、心理士、サービス・コーディネーターが入っていないといけません⁹⁵。

12. リージョナルセンターは私がサービスの利用資格があるかどうかをどうやって決めるのですか？

リージョナルセンターのサービスの利用資格があるかどうかを決定する基準については、第 2 章で細かく説明しています。

13. どうやってリージョナルセンターが決定したことを知ることができますか？

リージョナルセンターは、書面をあなたやあなたの代理人に送らなくてはいけません。あなたにリージョナルセンターの利用資格がない場合、5 日以内に書留郵便が送られてきます⁹⁶。リージョナルセンターがアセスメントを行わないことを決めた場合も、リージョナルセンターは通知を送らなくてはいけません。

14. もし、リージョナルセンターが、私にアセスメントやサービスの利用資格がないといった場合、どうなりますか？

もし、リージョナルセンターがインテークやアセスメントの結果、あなたに利用資格がないと決定して、あなたがその決定をおかしいと思っている場合、不服申し立てをする権利があなたにあります⁹⁷。申し立てには期限があるので、あなたは 30 日以内に不服申し立てをしないとはいけません。もし、あなたがおかしいと思うような決定をリージョナルセンターがした場合は、アセスメントをするしないといったことも含めて申し立てをすることができます⁹⁸。第 2 章ではリージョナルセンターを利用する資格についての基準について扱っています。第 12 章の紛争と申し立てでは、申し立てについてひとつひとつ順を追って説明しています。付録 S は時間軸が書いてありますが、それには決定通知を受け取る日、申し立ての期限、申し立ての通知をどのようにするかなどが書かれています。

15. 受給資格が認められなかった場合はどうなりますか？ 永遠にサービスが受けられないのでしょうか。

もしリージョナルセンターが、利用資格がないと判断した場合、そして、後になって事実が分かったり、新しい情報（新しい検査結果など）が手に入った場合は、あなたは再申請をすることができます。リージョナルセンターは再評価を行わずに、あなたが提出する新しい情報で検討する場合があります。

⁹⁵ Cal. Code Regs., tit. 17, 54001 条(b)。

⁹⁶ 4710 条(e)。

⁹⁷ 4710 条 5(a)。第 12 章紛争と不服申し立てを参照。

⁹⁸ 4710 条 5(a)。

16. リージョナルセンターのサービスの利用資格があるということになったら、その後はどうなるのですか？

リージョナルセンターのサービスの利用資格があるということになったらただちに、判定が完了してから 60 日以内にあなたと一緒に IPP を作らなくてはなりません⁹⁹。あなたの IPP は必ず、あなた、あなたの家族（必要な場合）、そしてリージョナルセンターと一緒に作らなくてはなりません。これこそがあなたがサービスを受ける方法ですから、IPP はとても重要になります。IPP はあなたとリージョナルセンターとの間の契約書のようなもので、リージョナルセンターが入手を手伝ってくれるサービスや支援が書かれています。第 4 章で本人中心の IPP と、その IPP がどのように動くのかについて述べています。

17. サービス・コーディネーターとは何ですか？

あなたのサービス・コーディネーターは、リージョナルセンターであなたの担当者になる、とても重要な人です。「ケースマネージャー」とか、クライアント・プログラム・コーディネーター（CPC）と呼ばれたりするときもあります。この人は本当に重要な人です。あなたを担当するサービス・コーディネーターは、本人中心の IPP を作るのを手伝い、他の機関からサービスを受ける権利を保障してくれるために働きます¹⁰⁰。普通、サービス・コーディネーターがリージョナルセンターであなたが最もよく会う人になります。

ランタマン法では、あなたや家族、そして、もしいれば後見人でも、サービス・コーディネーターの仕事の一部、あるいは全部を行うことができます。ただし、サービス・コーディネーターの仕事をする前に、リージョナルセンターの所長の合意が必要です。もし、これらの人たちがサービス・コーディネーターの仕事をするようになったら、リージョナルセンターはトレーニングと継続的な支援をしなくてはなりません¹⁰¹。

18. 私にはサービス・コーディネーターを変える権利がありますか？

はい、あります。リージョナルセンターが選任したサービス・コーディネーターとうまくいかない場合、違うサービス・コーディネーターを求めることができます。あなたとサービス・コーディネーターとの関係は重要ですから、あなたが合意しない限りサービス・コーディネーターを続けることはできません¹⁰²。違うサービス・コーディネーターをあなたが求めた場合、リージョナルセンターは新しい人を選任しなくてはなりません。もし、リージョナルセンターがサービス・コーディネーターを変更したい場合は、10 業務日以内に書面であなたに伝えなくてはなりません。

⁹⁹ 4646 条(c)。

¹⁰⁰ 4647 条(b)。

¹⁰¹ 4647 条。

¹⁰² 4647 条(b)。

19. 違うリージョナルセンターの管轄区域に引っ越した場合、私はサービスを受け続けることができますか？

リージョナルセンターからいったんサービスを受けると、あなたはカリフォルニア州全体のシステムに組み込まれたということになります。もし、他のリージョナルセンターが管轄するところに移った場合は、そのリージョナルセンターでサービスを受けます¹⁰³。リージョナルセンターはそれぞれ、他のセンターが決定した利用資格を認めなくてはなりません。ただし、新しいリージョナルセンターが十分な判断をした結果として、元々の決定が「明らかな誤り」であるということになった場合は別です^{104,105}。

引っ越しをしたら、新しい IPP が合意されるまでは、それまでの IPP が有効で、同じレベルのサービスや支援が受けられます。IPP づくりや内容については第 4 章で取り上げます。もし、新しいリージョナルセンターで引っ越す前に受けることのできたサービスや支援の一部が受けられなくなった場合は、30 日以内にミーティングを行って、新しい IPP に合意しなくてはなりません。新しい IPP が承認されるまでは、リージョナルセンターはそれまでの IPP の目的に最もよく合う、代替りのサービスや支援を可能な限り制約の少ない環境で提供しなくてはなりません¹⁰⁶。DDS は、新しいリージョナルセンターへのスムーズな引き継ぎの方法や、サービスや支援に遅れや格差を出さない方法に関するガイドラインを作りました。ガイドラインについては、付録 H をご覧ください。

20. 引っ越した場合、前のリージョナルセンターと新しいリージョナルセンターはどのように連携するのですか？

DDS が作ったガイドラインには、「サービスや支援をスムーズに移行させるためのリージョナルセンターの責任」が書かれています¹⁰⁷。ガイドラインによれば、引っ越し前、引っ越し中、そして引っ越した後も、リージョナルセンター、サービスを利用する本人、家族、サービス提供者が協働しなくてはならないとされています。新旧両方のリージョナルセンターはあなたやサービス提供者と一緒に調整を行って、「転居前

¹⁰³ 4643 条 5(a)。

¹⁰⁴ 4643 条 5(b)。

¹⁰⁵ 通常でない状況の下では、異なるリージョナルセンターの管轄する地域へ転居しても、従前のリージョナルセンターの利用者であり続けることができる。P.F.と D.B.の場合（公聴会事務局 L-2001120516 及び L-2001120517）、知り合って 35 年、同居して 8 年になる 2 つの異なるリージョナルセンターを利用する者が、以前のリージョナルセンターから住居を確保できないことを理由にもうひとつのリージョナルセンターへ移らされた。行政法判事は、このカップルがリージョナルセンターを変える必要はないと判断した。また、S.B.の場合（公聴会事務局 L-1998080340）、行政法判事は、満 4 ヶ月から東ロサンジェルス・リージョナルセンターを利用している 25 歳の女性が、単に父親の住居から母親の住居にリージョナルセンターの管轄区域を少しまたいだからということで、ハーバー・リージョナルセンターへ移転する必要はない、という判断を下した。行政法判事は、原告の「コミュニティ」の構成要件について論じ、その上で、原告のケースマネジメントは東ロサンジェルス・リージョナルセンターで行うべきであるとした。

¹⁰⁶ 4643 条 5(b)。

¹⁰⁷ 4643 条 5(c)。付録 H に移転ガイドライン。

計画」の会議を持つこととされています。この転居前計画がうまくいくように、引っ越しをしようと思ったらなるべく早くリージョナルセンターに伝えなくてはなりません。転居前計画は介護や行動支援といったサービスを引っ越したその日から受ける必要がある場合、重要になります。援助付き自立生活(supported living)のようなサービスも前もって計画されていなくてはなりません。転居前計画を作るときは、「誰が」どの役割に責任をもっているか、その責任とは「何か」、そして「いつ」それが行われるかをはっきりさせなくてはなりません。

ガイドラインでは、サービスを受けるリージョナルセンターが変わるような引っ越しがあった場合、サービスや支援に遅れや格差が出てはいけないとしています。あなたが3歳以下の場合には個別家族サービス計画(IFSP)、あるいはIPPが新しく作られ、新しいリージョナルセンターがサービスを提供するようになるまでは、それまでのリージョナルセンターがケースマネジメントや財政的な責任を負います。引っ越したときに、サービスを受けるのを待たなくてはいけないとか、それまでに住んでいる人が優先的にサービスを受けられるなどと言われるようなことがあってはいけません。たとえ新旧のリージョナルセンターがあなたの移転に反対していたとしても、サービスと支援について、あなたは新しいリージョナルセンターの管轄にこれまで住んでいた人と同じ権利を持っています。

家族の近くに必要な入所施設がないために他のリージョナルセンターの管轄で暮らさなくてはいけない子どもの住まいを保護するために、リージョナルセンターは、特別な努力をしなくてはなりません。普通は、ケースマネジメントをやりやすくするために、新しいリージョナルセンターの利用者になってもらいます。その子どもが「もはや」家族の近くのリージョナルセンターの利用者でないからといって、家族の近くに住むことを妨げられてはいけません。第6章質問30では、家族の近くに住まいを確保するために、リージョナルセンターが従わなくてはならない特別なルールについて説明しています。

21. 新旧のリージョナルセンターの間で、移転を巡って紛争があった場合はどうなりますか？

リージョナルセンター間で起こる移転を巡る紛争は、すべて自分たちで解決するよう努力するべきです。もし解決できない場合、リージョナルセンターか、サービスを利用する本人、本人が認めた代理人のいずれかが、DDSの地域サービス副部長にこの件に関わるよう求めることができます。DDSが関わったら、それぞれのリージョナルセンターはDDSに5業務日以内にそれぞれの立場を書いた文書を提出しなくてはなりません。副部長はすべての必要な情報が手に入ってから30日以内に、移転を巡る紛争や金銭的なことについて文書で意見を示します。

それまでサービスを提供していたリージョナルセンターが、紛争が解決するまでの間、ケースマネジメントやサービス支払いについて責任をもちます。サービスを利用する本人や家族がリージョナルセンター同士の紛争のせいでサービスが受けられないという事態はあってはなりません。

第4章 IPP—その作成と実行

- 本人中心のIPPプロセス
- 調査
- IPPを分かりやすく解釈する
- サービスを購入する効果と費用対効果
- 同意できないことがあった場合、IPPに対して何をすればいいのか？
- あなたのIPPを変更する
- あなたのIPPを実行する—どうやってサービスが提供されるか
- バウチャー
- リージョナルセンターによる新しいサービスの開発

1. IPPとは何ですか？

IPPとは、あなたがどのようなサービスと支援を必要としていて、望んでいるか、そして誰がそのサービスと支援を提供するかについて書かれた文書です。IPPは契約書のようなものです。なぜなら、あなたとリージョナルセンターがいったんIPPに書かれたことに合意すれば、リージョナルセンターはIPPに書かれたことを必ずやらないといけなからです¹⁰⁸。あなたは、IPPにサービスを付け加えるために書き換えな限り、IPPに書かれたサービスを無条件に受け取ることができます。

IPPには、あなたのニード、好みや選択、あなたの目標、そしてその目標を達成するために必要なサービスと支援が書かれています。IPPは、あなたや必要な場合には家族に焦点を当てて書かれていないといけません。あなたのIPPは地域への統合と自立した、有意義な、当たり前の生活を進めていきます¹⁰⁹。

この章では、IPPを得るためのプロセスについて説明します。あなたと目標、選択、ニードといったものがIPPを作るプロセスの中心に来ます。IPPを作るチームはあなたの長所や選択、ニードといったことについてあなたや他の人にアセスメントをして情報を得るかもしれません¹¹⁰。IPPに書き込まれることは、あなたが必要としていること、達成したいこと、そしてランタマン法の目的に基づいています。たとえば、もっと自立した、有意義な生活を送ることができるようにする、といったことです¹¹¹。IPPに書かれるサービスはあなた自身のニードに合わせて作られなくてはなりません¹¹²。他の機関から得るものも含めて、サービスと支援は具体的なタイプや量が書かれ

¹⁰⁸ 「IPPをどのように実施するかについて、リージョナルセンターに『広い裁量』があることは事実であるが、それを実施するかしないかについて決定する裁量は全くない。リージョナルセンターはIPPを実施しなくてはならないのである(4648条)」ARC対DDS (1985) 38 Cal. 3d 384, 390 (イタリック体は原文のまま)。

¹⁰⁹ 4646条(a)。

¹¹⁰ 4646条5(a)(1)。

¹¹¹ 4501条、4502条(a)。

¹¹² 「(ランタマン)法はあきらかに、『個人ベースで』一人ひとりの利用者に提供されるサービスが選ばれるように意図している」Williams対Macomber(1991) 226 Cal. App. 3d

ていなくてははいけません。IPPには、リージョナルセンターが、他の機関からあなたがサービスを得るのを手助けするのか、それともリージョナルセンター自身がサービスの費用を支払うのかについてはっきりと書かれなくてははいけません¹¹³。IPPミーティングの準備のために、付録J、K、Lのチェックリストを使うことができます。

2. 「本人中心の」IPPミーティングとは何ですか？

IPPのプロセスは本人中心でなくてはなりません。つまり、あなたやあなたの選択、好み、ニードに焦点が当てられなくてははいけないということです。本人中心の計画づくりとは、あなた自身が望む未来に向けて行動を起こすアプローチのことです¹¹⁴。つまり、あなたがどこで誰と住みたいか、あなたの時間をどのように誰と一緒に過ごしたいか、あなたがどこで働きたいか、生活の重要な部分をどうしたいかといったことを言うための方法です¹¹⁵。あなたは計画を作ることに参加しなくてははいけません¹¹⁶。本人中心の計画づくりは1回だけの会議で終わるものではありません。本人中心のIPPミーティングはあなたの計画づくりチームが顔を合わせてあなたの目標や夢を叶えるのに必要な支援について準備する重要なものです。

あなたが会議で最も大切な人であることを忘れないでください！ 会議はあなたやあなたの目標のために開かれるものです。この会議は、あなたが自分の目標をかなえるのを助ける方法を見つけるために開かれるのです。参加者一人ひとりが、あなたが理解できる言葉を使います。もし、言っていることが分からない場合は、説明を求めてください。あなたにとって何が重要か、そしてリージョナルセンターやその他の機関からあなたが必要としているものは何かについて主張するチャンスにしなくてははいけません。リージョナルセンターのサービスだけでなく、メディカルやIHSSといった他の機関、家族、友人、サービス事業者といったものについても主張すべきです。

本人中心の計画づくりについては、PAIかOCRAに問い合わせ、サービスを利用する本人が本人向けに書いた『あなたのIPP—これはただの紙切れではありません』を取り寄せてください¹¹⁷。他にも『ただの会議ではありません』というDDSが長いマニュアルを短くまとめたものも取り寄せることができます¹¹⁸。DDSからは、『IPP

225, 232 (ARC 対 DDS, Supra, 388, 390 を引用)。

¹¹³ 4646 条 5(a)(4)。「リージョナルセンターが利用者に提供することに合意したサービスと支援は、明確な言葉で書かれてはいけません。たとえば、リージョナルセンターが資金を『求める』という規定は、曖昧である。というのも、記載されたサービスを提供することに合意したのかどうか不明確であって、単に求めることに合意したに過ぎないからである。サービス提供機関が、IPP の案に記載されたサービスを提供することを約束すると述べたのであれば、そして、単なる要求でないのであれば、IPP はこのことを明確な言葉で書かなくてははいけません」T.S 対 Golden Gate Regional Center, OAH 事件番号 2003020153 及び 2003010267 (ARC 対 DDS, Supra, 390 を引用)。

¹¹⁴ 4646 条(a)。

¹¹⁵ 4502 条(j)。

¹¹⁶ 4512 条(j)、4646 条。

¹¹⁷ 出版番号 5038.01。

¹¹⁸ 出版番号 5122.01。

リソース・マニュアル：本人中心のアプローチ』という IPP に必要なものを細かく述べた、よい事例も紹介している冊子も手に入ります。この本には、本人中心の計画づくりをするためのさまざまな方法の例や成功した計画づくりの話が載っています。DDS に電話をするかホームページにアクセスしてください。

DDS' Consumer Advisory Committee では、『IPP を使って話から行動へ』という本をホームページで公開しています。他にも『形式から行動へ：本人中心の計画づくりにする』という本も同じホームページで手に入れることができます。

DDS には、新しいステッカー・ブック『ブックレット「自分自身で選ぶ」と「大事なことを伝える方法 (Satisfaction Guide-To help you tell others what is important to you)」のためのステッカー・ブック』もあります。

3. なぜ IPP はこんなに重要なのですか？

IPP はあなたとリージョナルセンターとの間の契約です。サービスと支援を提供するための合意になります¹¹⁹。もし、あなたが必要としていて受けたサービスと支援があれば、それが他の機関のサービスと支援であっても、IPP に書き込むように要求しなくてはなりません。サービスと支援を必要とするときは、IPP ミーティングを開くよう、リージョナルセンターに要求してください¹²⁰。「一般的な機関」が提供するサービスも含めて、すべてのサービスと支援が IPP に書かれなくてはなりません¹²¹。IPP に書かれているサービスについては、リージョナルセンターが提供するか、あなたが手に入れるのを手伝うか、他の機関から手に入れ続けるようにしなくてはなりません¹²²。IPP に書かれていないサービスは、リージョナルセンターから受けたり、リージョナルセンターの支援を受けて他の機関から得たりすることが当てにできなくなります！

4. だれが IPP を作るのに責任をもつのですか？

作成チーム（あなたの IPP ミーティングに参加する人）が IPP に何を入れるかについて責任をもちます。IPP には、あなたとリージョナルセンターの代表が合意したものが盛り込まれます。IPP ミーティングの後に、リージョナルセンターのサービス・

¹¹⁹ 「発達障害者の権利と州の義務は、それぞれの利用者のためにリージョナルセンターが作成しなくてはいけない IPP を通して実施される」Clemente 対 Amundson, 60 Cal. App. 4th 1094 (1998) (4646 条、4647 条、ARC 対 DDS, supra, 390 を引用)。

¹²⁰ M.B.対 Redwood Coast Regional Center, OAH 事件番号 2001120531 参照。同事件では行政法判事が以下の決定を下している。「請求者がサービスをサービス・コーディネーターに要求した時点で、サービスコーディネーターは作成チームを招集するべきであった」

¹²¹ 4646 条 5(a)(4)。一般的な機関とはリージョナルセンターの利用者であるか否かに関わらず、広くサービスや給付を行う機関である。4644 条(b)。一般的な機関とサービスの例は、メディカルやメディケアのプログラム、身体障害に関するカリフォルニア児童サービス (CCS)、特別教育プログラムに沿ってサービスを提供する学校区、SSI もしくは障害給付に関する社会保障局である。

¹²² 4648 条。

コーディネーターが IPP の写しを渡してくれます¹²³。IPP ミーティングは敵味方
対立するようなものではありません。IPP は一緒に作り上げるプロセスです¹²⁴。IPP
ミーティングは、あなたやあなたの支援の輪、そしてリージョナルセンターを含めた
作成チームと一緒にあなたの目標や夢を達成するための方法を作り上げていく機会を
与えてくれます。あなたは、あなたが希望すること、夢、挑戦したいことを持ち寄り、
リージョナルセンターは地域で利用できるサービスと支援についての経験や知識を持
ち寄ります。

5. IPP 作成チームとは何ですか？

IPP は作成チームで作られます¹²⁵。作成チームは次の人たちからなります。

- あなた。
- もしあれば、あなたが認めた代理人。
- 未成年の場合はあなたの親か後見人、もしあなたが大人になっていて裁判所が
後見人を指名していればその後見人。あなたが望むのであれば、家族を出席さ
せることもできます。もし話すことができないのであれば、家族に出席しても
らってあなたが望んでいることを伝えてもらうこともできます。
- あなたが参加しているプログラムや住んでいるところなどから誰かあなたが
会議に出てほしい人。
- サービス・コーディネーターを含む、リージョナルセンターの代表。
- IPP にあなたが書き込んでほしいものがあるときに、「できる」「無理」をはっ
きり言える立場のリージョナルセンターの職員（決定者）。
- 入所施設に住んでいる場合は、入所施設のスタッフも出席します¹²⁶。

サービスと支援について、そしてそれを誰が提供するかについての決定は、あなた
とあなたが認めた代理人、もし必要であれば家族、そしてリージョナルセンターとの
間で合意書という形で作られます。この決定は、作成チームの会議でなされます。詳
しくはこの章の質問 20 をご覧ください。付録 I には IPP づくりのすべての段階を覚
えるのに役立つ情報が載っています。

¹²³ 「サービス・コーディネーターが IPP の準備、監督、モニタリングそして実施に責任
を負う」M.B.対 Redwood Coast Regional Center、OAH 事件番号 2001120531 参照(4647
条(a)(b)を引用)。

¹²⁴ 「議会は IPP プロセスを協働によるものであると想定した。プロセスにおいては、可
能な限り多くのソースから当事者に関する情報を集め、その情報を評価し、当事者の二
ードに対応しうる計画を考え、その実効性を効果的に評価できるような形で計画を記す」
Alejandra R.対 Eastern Los Angeles Regional Center、OAH 事件番号 L-2003010445 及
び L-2003040204。

¹²⁵ 作成チームの定義については 4512 条(j)を参照。IPP に書かれるサービスと支援は、
作成チームメンバーによって決定されなくてはならない。4646 条(d)。

¹²⁶ 4418 条 3(d)。

6. 近所の人に IPP ミーティングに参加してほしいと思っているのですが、直接来ることができません。電話で参加することはできますか？

はい。あなたのご近所でも誰でもあなたが選ぶ人であれば、電話で参加することができます。リージョナルセンターに「スピーカー」のついた電話を確保してもらってください。そうすれば、あなたのご近所の人や IPP ミーティングに参加している人が言っていることを聞くことができますし、IPP ミーティングに参加している人もあなたのご近所の人や言っていることを聞くことができます。ご近所の人に最新の IPP や変更点、そして IPP ミーティングにサービス・コーディネーターが提出するものすべてを送ってもらうよう、サービス・コーディネーターに頼んでください。

サービス・コーディネーターに電話をしたら、こんな風に言うことができます。「私は、ご近所のヒルさんに電話で会議に出てもらいたいと思っています。彼女は働いているので直接その場所に行くことができません。私の最新の IPP とあなたが会議に持ってくる予定の文書を郵送するか FAX するかしてもらえますか？」

7. 生活の質を判定するプロセスとは何ですか？ そして、それは私の IPP を作るのにどのように役に立つのでしょうか？

エリア・ボードは家族と同居する以外の環境に住んでいる、サービスを利用する本人全員に「生活の質の判定」を行います。たとえば、看護施設(skilled nursing facility)やグループホーム、支援を受けた生活の場、あるいは自立生活といったところに住んでいる場合です。もし、生活の質の判定を受けたいのであれば、少なくとも3年に1回は行われますし、頼めばもっと頻繁に行ってくれます。

生活の質の判定を行っている間、あなたが自分の生活の質をどう見ているかを知るために、面接が行われます。面接にやってきた人は、あなたの人間関係やライフスタイル、健康や幸せ、あなたの選択、権利、そして満足度などについて尋ねます。質問は、生活の質の結果についてのリストから出されます。「25 の生活の質の結果」のリストは付録 M に付いています。このリストは DDS の審議会で作られました。その審議会には大勢のサービスを利用する本人が入っています。

生活の質の判定の面接を行う人は、普通はボランティアです（他の当事者や家族も含む）。ボランティアたちは、エリア・ボードに採用されて研修を受けます。判定は IPP 評価の少なくとも 90 日前に行われ、その結果はあなたとリージョナルセンターに送られます。この判定があることで、あなたやあなたのサービス・コーディネーターが作成チームの会議を行う前に新しい、違う支援について何が必要かを考えることができます。もし判定を行うことであなたの権利が侵害されていることが分かったら、リージョナルセンターと DDS に通報されますし、それによって権利が侵害されている状態を改善することができます¹²⁷。

8. 「支援の輪を確認し作り上げる」とはどういう意味ですか？

「支援の輪」とは家族、友人、そして生活の中でよく会う人たちからできたボラン

¹²⁷ 4570 条(h)。

ティアのグループで、経験を分かち合ったり、自立や地域への参加を進めたりする人たちのことです。もしご近所や友人から支援が得られることが分かっていたら、問題解決も楽になります。リージョナルセンターはあなたが支援の輪を作るのをお手伝いします。支援の輪は「ナチュラル・サポート」のひとつです¹²⁸。

ナチュラル・サポートとは、あなたが住んでいる地域の一員となれるようにしてくれる人たちのことです。家族であったり、ご近所、同僚、友人、同級生、あなたが参加している団体やクラブ、市民組織のメンバーであったりします¹²⁹。しかし、リージョナルセンターは友人や家族が自発的に支援をすることを約束していない場合、彼らがすべきだと言ってサービスを出さないことはできません。

9. IPP ミーティングはどこで開かれますか？

IPP ミーティングはあなたが行きやすい場所で、都合のいい時間に行われます¹³⁰。あなたが住んでいるところで行われることもあります。デイ・プログラムのときやリージョナルセンターの事務所でされることもあります。

10. ときどき、送ってきたものをなくしてしまうことがあります。リージョナルセンターから他の人にも通知を送ってもらうことはできますか？

はい、できます。IPP ミーティングやサービスについての通知を、支援をする人だとあなたが思っている人に送るよう、サービス・コーディネーターに頼むことができます。親や家族、アドボケート、友人などがそれに当てはまります¹³¹。リージョナルセンターは口頭で IPP ミーティングについて通知することができます。書面でほしいのであれば、PAI はあなたがリージョナルセンターに手紙を書いて、これから先の IPP ミーティングについての通知はすべて書面であなたやあなたが指定する人に送ってもらいたいことを伝えるよう助言します。

11. リージョナルセンターから先ほど、あなたには受給資格があると言ってきました。いつ最初の IPP を手に入れることができますか？

最初の面接とアセスメントから 60 日以内に IPP は書かれなくてはなりません¹³²。つまり、この 60 日の間に IPP ミーティングが開かれて、IPP を書き終えていなくてはならないということです。ときどき、特に最初の IPP の場合は、2 回以上の会議が必要になります。早く始めて、60 日以内に IPP が書き終わりサービスが始まるようにすることが大切です。

リージョナルセンターを利用できると言われてから 2、3 週間たっても IPP ミーティングの日程について何も言ってこなかったから、リージョナルセンターに電話していつ IPP ミーティングが開かれるか聞いてください。サービス・コーディネーターの

¹²⁸ 4512 条(f)。

¹²⁹ 4512 条(e)。

¹³⁰ 4646 条(a)。

¹³¹ 4646 条(e)。

¹³² 4646 条(c)。

名前が分からなくても、リージョナルセンターのオペレーターが調べることができます。あるいは、最初の面接を担当した人と話したいと言ってもかまいません。

12. どのような頻度で IPP ミーティングを開かなくてははいけませんか？

どの IPP も少なくとも 3 年に 1 度、修正を前提とした見直しをしなくてはなりません。もしあなたが望むのであれば、もっと頻繁に見直したり修正したりすることもできます。この変更は、あなたがどれくらい目標を達成したか、そしてニードがどのように変化したかに基づいて行われます¹³³。

もしメディ＝カルの居宅・地域サービスウェーバーシステム¹³⁴を使ってサービスを受けている場合や、グループホームや中間ケア施設 (Intermediate Care Facility: ICF/DD)、もしくは入所施設に住んでいる場合は¹³⁵、IPP を見直すための IPP ミーティングを毎年行わないといけません。

あなたは IPP ミーティングやサービスの変更についての通知、不服申し立てについての通知を受け取ってほしい人を指名することができます¹³⁶。

13. 私への支援を変えるために IPP ミーティングをいつでも開いてもらうことはできますか？

はい、できます。あなたがサービスと支援を変えたいということで IPP ミーティングが必要だと思えばいつでも開くことができます。計画作りのための会議はあなたが IPP を見直したいと申し出てから、30 日以内に行われなくてははいけません¹³⁷。IPP ミーティングをお願いするにあたっては、付録 N にある様式を使ってください。

14. IPP ミーティングで私を手伝ってくれる人を指名したり、指名してもらったりすることはできますか？

はい、できます。もしあなたが大人 (18 歳以上) で、裁判所で指名された後見人がいない場合は、作成チームに特定の人をあなたが認定した代理人として指名したいと告げることができます。あなた自身が代理人を立てずに参加するのがよいと思いますが、あなたはこの方法を選ぶことができます。IPP ミーティングに人を呼ぶだけにしておいて、認定した代理人として指名しないという方法を私たちはおすすめします。

場合によっては、エリア・ボードに認定した代理人を指名してもらうように頼むこともできます。認定した代理人はあなたが何を必要としていて、何を選ぶのかを話したり、決定をしたりするのを手伝ってくれます。付録 AA にエリア・ボードの一覧があります。もし、自分でお願いをすることができなければ、誰か別の人があなたに代わってお願いすることもできます。あなたは家族や友人のような特定の人を指名する

¹³³ 4646 条 5(b)。

¹³⁴ メディ＝カルの居宅・地域サービスウェーバーシステムについては、第 13 章を参照。

¹³⁵ 中間ケア施設については、第 7 章質問 11 を参照。

¹³⁶ 4646 条 (e)。

¹³⁷ 4646 条 5(b)。

ことができます。もし、あなたがそうした特定の人を指名しない場合、エリア・ボードが家族や可能であればボランティアを指名することもできます。エリア・ボードはあなたが入所施設に住んでいて地域に移りたいと提案している場合は、必ず代理人を指名できるようにしておかなくてはなりません¹³⁸。

15. 話すことができない場合、どうやって IPP ミーティングに参加することができますか？

人がいる限り、多様なコミュニケーション方法があります。話さなくても人々は情報をやりとりできます。手話やコミュニケーションのための機器を使っている人も多くいますし、指し示す人もいます。また、うなずきや瞬きで「はい」「いいえ」を言うことができる人もいます。「はい・いいえ」を伝えられない人でも何が好きで何が嫌いかを伝えることはできます。リラックスしたり、笑ったり、うれしそうな声をあげたりすることで好きなものを表現できます。また、嫌いなものは、緊張したり、叫んだり、泣いたり、あるいは発作が増えるといった兆候で伝えることができます。

IPP は本人中心のものですから、あなたが最大限参加できるように、そして IPP をあなたの選択が反映されたものにするために、IPP ミーティングの前には特別な準備が求められます。あなたには IPP ミーティングに参加する助けになるのであれば、通訳やファシリテーションを用いる権利があります¹³⁹。ファシリテーションとはあなたが理解できる方法で情報が提供されることです。特別な機器やアシスタントを置くことで、あなたの生活に影響を与える決定や選択をするための情報を理解することができます¹⁴⁰。コミュニケーションに問題がある場合は、あなたのことやあなたの好き嫌いをよく知っている人に来てもらって、あなたがほしいものを IPP に書いてもらうことがとりわけ重要になるでしょう。

16. 英語を話せない場合はどうすればいいですか？

英語を話さない、英語を理解するのが難しい、あるいは他の言語で話してもらった方がよいと感じられる場合は、リージョナルセンターに最初の面接を行う際に申し出てください。リージョナルセンターは通訳を手配しなくてはなりません。よいコミュニケーションは重要です。最初の面接からはじまるあらゆる会議で必要であれば通訳を通して話すことができます。英語を話す友人や家族に付いてきてもらって、手伝ってもらうこともできます。しかし、リージョナルセンターの側からプロの通訳の代わりに友人を連れてきてほしいと求めることはできません。もし、IPP や他の書類を翻訳したり、会議や電話に通訳が必要であれば、法律でそうしたサービスを求める権利があなたにはあります¹⁴¹。

¹³⁸ 4548 条。

¹³⁹ 4512 条(b)。

¹⁴⁰ 4512 条(g)。

¹⁴¹ 州法(Government Code) 7290 条 以下、11435 条 05、11435 条 15、11435 条 25(b)、及び州福祉制度法(Welfare and Institutions Code)4502 条 1、4646 条、4646 条 5(a)(1)、4701 条、また、Cal. Code Regs.22 章 98210 条(a)、(c)、(d)、98211 条(c)。

リージョナルセンターに通訳のサービスが必要だとなるべく早く申し出るのはいい考えです。付録 T の「私の第一言語でリージョナルセンターとコミュニケーションすることを求める」をご覧ください。もしリージョナルセンターが書類の翻訳や通訳をしない場合は PAI か OCRA にご相談ください。

17. IPP ミーティングで起こっていることすべてを追いかけられないのではないかと心配しています。アドバイスをお願いします。

PAI は記録をとったり何が起きているかをフォローしてくれる人を連れてくることをお勧めします。会議の前にそうした準備をしておくとなんが起きているかを追いかけるようになります。付録 J に IPP ミーティング計画があります。

PAI は、イーゼルや大きな模造紙、マジック、テープを持ってきてもらうようリージョナルセンターに頼むことをおすすめします。そして、会議に出ている誰かにイーゼルの貼った模造紙に記録をつけてもらうよう頼んでください。書き込んだ模造紙は壁に貼ることもできるので、誰でも会議の記録を見ることができます。もし、サービスを受けるのに役立つと考えられるアセスメントや報告があるのなら、そのコピーを会議に持って行くことも役に立つでしょう。

18. IPP ミーティングではまず何をしますか？

計画作りは、情報集めと、もし必要ならアセスメントからはじまります¹⁴²。情報やアセスメントはあなたの生活の目標や能力、長所、好み、目標を達成する上のバリアなどの問題を決めるのに役立ちます。このプロセスは IPP チームが目標や目的を一覧にするとときに役立ちます。

子どもの場合、家族全体の長所や好み、ニードの評価も含まれます。情報はあなた、あなたの家族、友人、アドボケート、サービス提供者などから得られなくてはなりません。そうすることで、全体像がはっきりしてきます¹⁴³。

時々、正式なアセスメントが行われないことがあります。その場合は代わりに、チーム会議に情報が集められます。会議の最初の部分では、あなた自身に関する情報を理解し、あなたの目標、長所、能力、好み、目標を達成する上のバリアが何かを特定するために十分な時間を確保してください。PAI はイーゼルと模造紙を使って記録をつけることをおすすめします。

19. リージョナルセンターは、IPP を書く前にアセスメントが必要だと、いつ決定するのですか？

ある種のサービスと支援を必要とする人に対する、正式なアセスメントはチーム会議の前か 1 回目と 2 回目の会議の間に行われます。例としては、行動管理サービス、作業療法や理学療法、援助付き自立生活があります。アセスメントが必要な場合、資格のある人がアセスメントを行わなくてははいけません。可能な限り、アセスメントは

¹⁴² 4646 条 5(a)(1)。「IPP には以下が含まれなくてはならない：利用者の能力と問題のアセスメント」ARC 対 DDS, *supra*, 384,390.

¹⁴³ 4646 条 5(a)(1).